Philippine 下見 Camp

—２０１０—

Place: Philippine, Leyte, Matag-ob & Villaba

Time: August, 20th ~ September, 9th

もくじ

はじめに………3

FIWC とは……4

重要人物紹介 ……5,6

事前・下見行動記 ……7,8

２０１１年春ワーク内容……9,10

最終候補地について……11~14

ワーク地決定経緯……15

その他の候補地……16~21

マタグオブ市とビラバ市 ……22

ワーク *Evaluation* ……23~25

TEAM★文房具現地報告 …26~31

生活状況 ……32,33

会計報告 ……34,35

KP(Kitchen Police) ……36

保険報告 ……37

マニラ観光（*Salt* 報告） ……38,39

他己紹介 ……40,41

感想……42

はじめに・・・

今年も無事下見キャンプを終えいよいよ 2011 年のフィリピンキャンプが動き始めた。
私を含め今回で 2 度目のフィリピンとなった、あっこ、たかし。そして初めて参加した、だいき、ゆーじ。

この 5 人で目指すキャンプは**「将来性」**のあるキャンプ。
この「将来性」とは**「現地の村にとっての将来」**と私達**「FI にとっての将来」**。
そして「将来性」を高める手段として最重要視したのが**「人とのつながり」**である。

この下見キャンプで私たちが感じたのは FI が築いてきた歴史の重みであった。
行く先々で直接の面識は全くない人々が FI を知っており、見ず知らずの私たちも FI の一員として温かく迎えてくれる。これは FI のフィリピンキャンプがマタグオブ市で長年培ってきた信頼関係のおかげである。

そんな**「人と人とのつながり」**を大切にし、村人、とくに若者に少しでも良い刺激となれたなら…。
FI のフィリピンキャンプを来年も再来年もずっと続けていけるように…。

今回のワーク地も今まで長年やってきたマタグオブ市でやるか、全く新しい土地ビラバ市に移るかで揺れた。しかし、**「人と人とのつながり」**を考えたときメンバー全員が迷わずマタグオブ市マラサルテ村でのワークを選んだ。

マラサルテ村はいわば FI のやり残した宿題のようなものである。何度も最終候補地まで残りながらワーク地になることはなく、状況は数年前から何一つ改善されていない。
そこを残したままビラバ市に移ることはできないというのが私たちの思いである。
ワーク地決定の知らせをしたとき、マラサルテ村の村長さんは涙を流して喜んでくれた。
「あの涙の重みを忘れてはいけない。」「その期待に応えなければならない。」
そう心に誓った瞬間だった。

ともに議論し、悩んだ 5 人とこれから出会う新しい仲間たちと共に、村の人たちの期待に応え、FI の歴史にまた新たな歴史を、新たな人々との**「つながり」**を築きたい。

未熟な私たちに多くの助言やお叱りの言葉を下さった OB、OG の皆さま、FI のみんな、これからも私たちの成長を温かく見守っていただければ幸いです。

とりあえず無事下見キャンプを終えられたことに本当に感謝！！

2011 年フィリピンキャンプリーダー　鹿島由紀

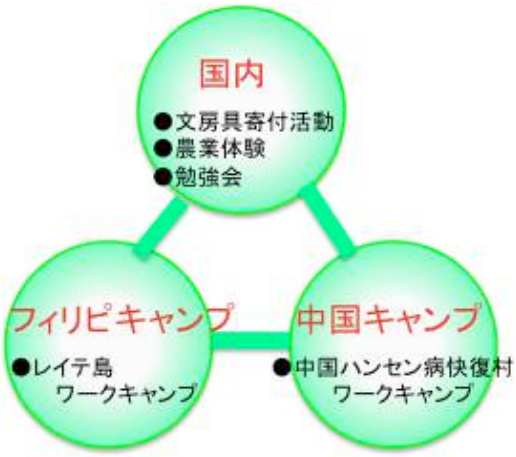
FIWC九州とは・・・

Friends

International

Work

Camp



FIWC 九州は九州（主に福岡）の大学生が主体となり学生のみで国内外で国際協力活動を行っている学生 NGO 団体です。

国際活動

●中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

●フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

国内活動

●FP(FIWC Party)

月 1 回第 4 土曜日にびおとーぷで行うワークショップ形式の勉強会。

●チーム★文房具

文房具寄付活動をきっかけに、日本の小中学生への開発教育や勉強会を行っている。

●耶馬渓キャンプ

年3回大分県の耶馬渓で農業体験を行っている。

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。
また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながら、それぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンプメンバーだけでなく国内活動にも一緒に参加してくれる大学生を募集中です！！

重要人物紹介

ロクロクさん

1999 年から FIWC 関東の活動に参加して下さっている現地のエンジニアさん。FIWC 九州発足後は九州の活動をプロジェクトのみに関わらず、キャンプをさまざまな面からサポートしてくださっている。今回もほとんど毎日下見に参加してくれ、現地人との仲介役としてサポートしてもらった。たまに飛び出すフィリピーノジョークはさておき･･･フィリピンの文化や政治、言語など様々なことを教えてくれ、何より一番に私たちの体調を気遣ってくれる、キャンプになくてはならないやさしいお父さんのような存在。

マラサルテ村の村長：レティ

次のワーク地に決定したマラサルテ村のカピタン（村長さん）。口数は多くないがカラオケが始まるとのりのりに♪笑顔がかわいくてなんだかおちゃめな村長さん。

ダディドドン＆マミーサニー

2009 年のワーク時にお世話になり、それからも私たちの活動をサポートして下さっている元副マタグオブ市長夫婦。ダディは自称「フィリピンの父」！！ビラバ市での下見にも同行してくれたり、マミーお手製のディナーに招待してくれたりと今回も何かとお世話になった。「ラミ！！！（美味い）」と叫びながら村々を練り歩くその姿はもはやフィリキャン名物･･･！？とにかくすんごい人物です。

Denoy ファミリー

前ワーク地サントロサリオの村長：ロジャーとその家族たち。今回の下見では家に2，3日ステイさせてもらった他、マラサルテでステイを始めるまでほとんどの食事を用意してもらうなど本当にお世話になった。とても仲の良い家族で私たちのことをいつも気づかい、温かく迎えてくれた。

なみさん

2008年のフィリピンキャンプリーダーで、その後 1 年間フィリピンに留学していたというフィリピン通のなみさん。今年は卒業研究のため現地に滞在していたため、下見に同行していただいたり、マニラの観光案内してもらったりほんとにお世話になりました。たまに酔っちゃってテンションあがっちゃうおちゃめななみさんだけど、いつも私たちのこと気遣って助言してくれて、ほんとに頼もしかったです。

NorWeLeDePAI (North Western Leyte Development Parent`s Association Inc)

FIWC 九州と、2004 年の下見から協力体制をとっている現地の NGO 団体。FIWC 関東とも協力しており、フィリピンにおけるワークキャンプでは重要な存在である。この団体は、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的な NGO である World Vision のドイツ支部から資金援助をうけている。今回下見キャンプでは、ワーク候補地の情報の提供、貴重品の管理、文房具活動のエバリュエーションへの協力などでお世話になった。また、ビラバ市での下見の際には現地スタッフを紹介してくれた。

事前・下見行動記

● スケジュール

6月11日	第1回ミーティング　@あすみん
6月23日	第2回ミーティング　@あすみん
6月30日	第3回ミーティング　@あすみん
7月　8日	第4回ミーティング　@あすみん
7月14日	第5回ミーティング　@あすみん
7月22日	第6回ミーティング　@あすみん
8月　8日	第7回ミーティング　@あすみん
8月18日	第8回ミーティング　@あすみん
8月20日～9月　9日	下見キャンプ
9月20日	第1回帰国後ミーティング　@あすみん
10月7日	第2回帰国後ミーティング　@あすみん
10月23日	フィリピンキャンプ報告会　@びおとーぷ

※今回、1回のミーティングの時間を減らし回数を増やした。

●キャンプ行動記録

8月20日	10:50発福岡空港→台北経由→香港15:00着
	16:20発香港→セブ島19:05着　　セブ（シランガンホテル）で一泊
8月21日	5:30発セブ港→オルモック港着（レイテ島）　ノルウェルでMTG
	前回のワーク地サントロサリオ村の村長宅で一泊
8月22日	ロクロクさんと合流しMTG
★	前回のワークと文房具寄付のEvaluationを行う
8月23日	マタグオブ市の警察に書類を提出し、市のエンジニアの話を聞いた
★	イメルダ村とバラクタス村のSurvey
8月24日	ノルウェルでマイケルとMTG
	メリダ市でFIWC関東の本キャンプを見学
8月25日	市長に表敬訪問し、サンセバスチャン村のSurvey
★	午後はMTG　　ダディ・ドドン宅で夕飯を頂く
8月26日	ビラバ市へ
★	ヒナブヤン村とリバゴング村のSurvey

8月27日	ビラバ市へ（2日目）
★	シーラッド村とバレイテ村のSurvey
8月28日	ロクロクさん一時帰宅のためダディとマラサルテ村のSurveyを行う
	以上で候補地の下見終了　夜に候補地をしぼるMTG
8月29日	シーラッド村を再訪し、再度Suevey
★	シーラッド村のMTG
8月30日	サンタローサ村のフィエスタへ
★	夜はタタイ・ボニン（サンセバ）の誕生日に招待される
8月31日	小学校の先生と保護者の前でソーラン節を披露
★	ワーク地決定MTG　夜はあこの誕生日を村の皆に祝って頂く
9月1日	マラサルテ村へワーク地決定の報告
★	サントロサリオ村からマラサルテ村へ移動する準備をする
9月2日	マラサルテ村へ移動し、BRGYホールで村役員達とMTGを行う
★	前村長（現村長の母）宅にステイ
9月3日	メンバーのうち2人がノルウェルに報告に行く
	サントロサリオ村の残ったワークについてMTG
9月4日	リーダーとワークリーダーがサントロサリオ村へ行き村長とMTG
	バスケの試合見学　GAMの準備を行う
9月5日	マラサルテ村でGAMを行う
★	マラサルテ村最後の夜を多くの村人と過ごす
9月6日	小学校へメッセージを渡し、市に帰国の報告
	集落と小学校にパイプをつなぎ水が上がるか確認
9月7日	タクロバンから飛行機でマニラへ移動
	なみさんと合流
9月8日	Saltのスタディツアーに参加
	午後はマニラ観光
9月9日	11:05発マニラ→香港13:10着
	14:55発香港→台北経由→福岡空港20:45着　無事帰国!!!

★印はロクロクさんが FI に協力してくれた日。ただし、30日と31日は半日。

※GAM(General Assembly Meeting)・・・通常ジェネアセ。村人を集めてワーク、FIWC について説明し、理解を得る場。

2011年 春 ワーク活動内容

BRGY.Malazarte

〈概要〉

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市マラサルテ村

期間：2011 年 2 月～3 月のうち 15 日を予定

内容：Water System(水道設備)の改善

ワーク参加者：FIWC、現地エンジニア、村人ボランティア、村役員

〈詳細〉

村	マラサルテ	人口	337～400人（2010年現在）
問題点	台風の影響で水源のタンクが崩壊し、ここ数年深刻な水不足に見舞われている。現在水を得るために村から離れた井戸に水を汲みにいったり、水を持っている家にもらいに行くなど不便な状況である。また、崩壊した水源のタンクの代用品としてポリタンクを使用しているので水質が悪く腹痛を訴える村人が多数いる。		
場所と移動手段（距離、時間）	市の中心にあるマーケットまで、バイクで30～40分ほどかかる。		
備考	村が市の中心から離れて山奥にあることもあり、村は他に比べて貧しい。		

Ⅰ．ワーク内容

今回のワークでは水不足である村の Water System を改善する。

この村の水不足の原因は主に 2 つある。

- Water Source(水源)のタンクが壊れている。(現在ポリタンクで代用)
- Water Source(水源)から BRGY(村)までのパイプが細い。

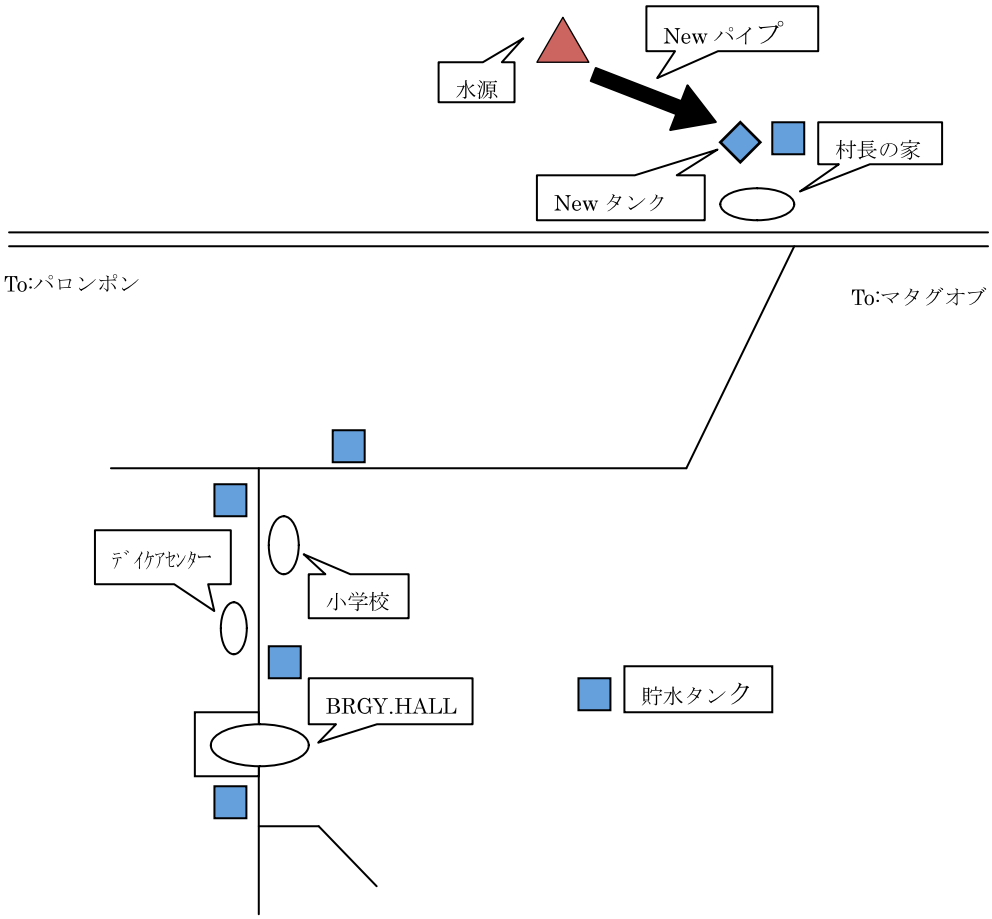
この問題を解決するために、以下の 3 つの作業を行うことを決定した。

- Water Source(水源)のタンクを作る。
- Water Source(水源)から BRGY(村)までのパイプを太いものに変える。
- BRGY(村)に増えた水量を貯水するためにタンクを作る。

期間としては 15 日を予定している。(土日休みで 3 週間。予備日を 1 日含めた計算)

人員は村から 1 日に 15 人出してもらうことを約束した。(村役員、Skilled Worker を含む)

FIWC からは約 15 名を予定。



Ⅱ．資材と費用

BRGY:40,000P(タンク代)
FIWC:70,000～75,000P(パイプ代)

最終候補地について

今回の下見キャンプで最終候補地として残ったものは、

先にあげたマラサルテに次いで、シーラッド、サントロサリオであった。

BRGY.Silad

〈概要〉

場所：フィリピン共和国レイテ島ビラバ市シーラッド村

内容：Water System(水道設備)の改善

〈詳細〉

村	シーラッド	人口	1552人(2010年現在)
問題点	村の中心部にしか水道設備が無い。海に面しているため井戸を掘っても塩分を含んでおり、飲み水としては適さない。豊かな水源を3つ持ってはいるが、村までの距離が遠いため、パイプの費用面で厳しい。また、現在周辺地域ではトイレが無い家がほとんどである。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで5～10分ほどかかる。		
備考	今年中に公共のトイレを作るプランがある。村で仕事を持っている人が少ない。		

Ⅰ．ワーク内容

この村の問題は上記の通り、Water System(水道設備)が無いことである。

このため、プランとして以下のワーク内容が候補としてあがった。

- Water Source(水源)に取水タンクを作る。
- Water Source(水源)から村までの中間地点に貯水タンクを作る。
- Water Source(水源)から中間地点のタンク、そこから村までのパイプをつなぐ。

これによって村全体に利益が行き渡ることとなる。

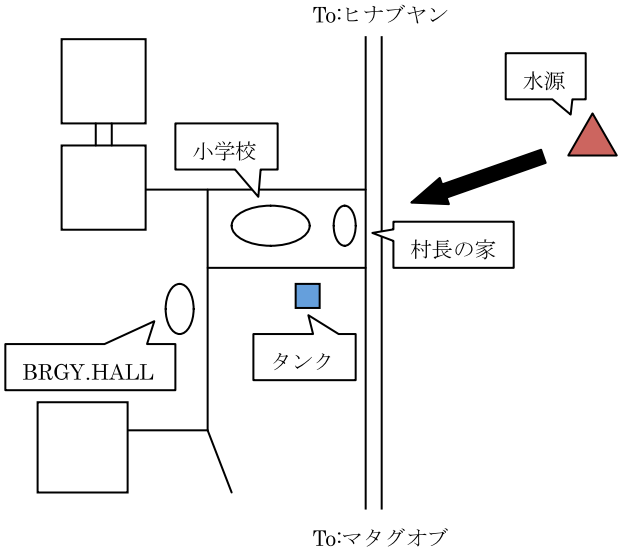
人員は村から最低でも 1 日に 20 人は出すとのこと。

期間は 15 日を予定していた。

Ⅱ．資材と費用

FIWC:105,000P(水源のタンク代、中間地点のタンクから村までのパイプ代)
BRGY:225,000P(水源から中間地点のタンクまでのパイプ代)

※ 現金で市などにお金を借りるには選挙前でもないのでこの額は借りることができないが、資材としてパイプを支給してもらうようにすることはできるとのこと。



BRGY.Sto.Rosario

〈概要〉

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市サントロサリオ村

内容：Water System(水道設備)の再設計

〈詳細〉

村	サントロサリオ	人口	1697人(2007年調べ)
問題点	前回のワークで、この村の小学校とアマンダイという高台の集落に水を引くプロジェクトを行ったのだが、異常気象によりワークが進行せず、現在それらの場所に水が通っていない。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで5～10分かかる。		
備考	前回(2010年春)のワーク地であり、日本人に対してすごく良い印象を持っている。広大な土地柄から米などを作り生計を立てている家庭が多い。		

Ⅰ．ワーク内容

現地**エンジニア**の出したプランとして以下のものが候補として挙がった。

- 電動ポンプを取り付け、井戸水を汲み上げる。(井戸は昔使っていたもので飲み水には適さないが、小学校は雑用水を必要としているため可)
- 井戸から小学校内のタンクにつなぐ。
- タンクと各教室につながっているパイプとをつなぐ。

これによって小学校の各教室に水が行き渡ることになる。

作業日程も 2~3 日の予定で、資金も 15,000～20,000P とワークとしては小規模である。

しかし、このワークの「**問題点**」として以下のものが挙げられた。

- ポンプは電気製品であるため、故障時のメンテナンスにかかる費用を誰が負担するか
- 本来私たちがつなぐ予定であったアマンダイに水道設備を整えることができない
- 村のプランで、将来資金が集まり次第、以前より太いパイプを使うことでアマンダイと小学校に水を引くプランがあることから、たとえ電動ポンプを使うワークを行ったとしてもいずれ使われなくなる可能性が高い。

このことから、現地エンジニアの案を取り消し、**BRGY のプラン**で話を進めていくことにした。そのプランが以下のものである。

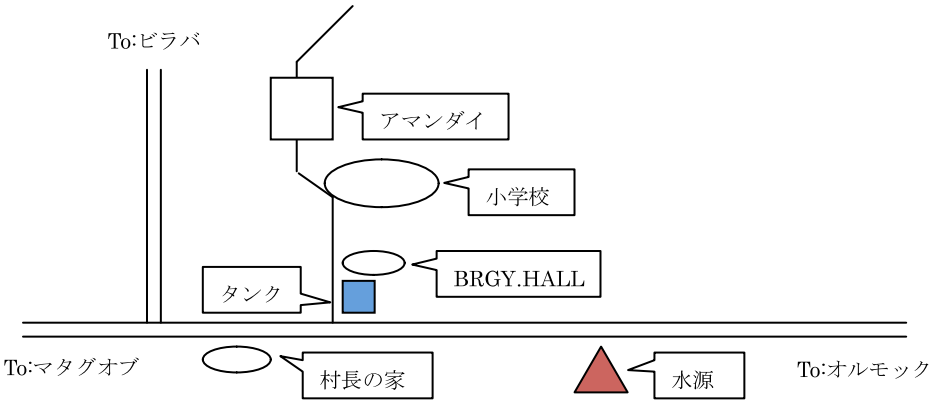
- Water Source(水源)からアマンダイへ、以前のパイプより太いもの(2inch)をつなぐ。
- 資金次第では、アマンダイに貯水タンクを作る。
- アマンダイより低地にある小学校にタンクからパイプをつなぐ。

これによってアマンダイ、そして将来的には小学校にも水が行くことになり、先ほどの電動ポンプを使うプランよりも将来性のあるものだと判断した。以後の資金などについてはこちらのプランの場合について記述する。

Ⅱ．資金と費用

80,000P:水源からアマンダイまでのパイプ代

※急なプランであったので、Counter Part まで村と話し合うことはできなかった。
去年(2011 年春)にワークをしたばかりで、現在この村には必要な資金がない。



ワーク地決定経緯

私たちはこの夏、マタグオブ市で 5 つの BRGY、ビラバ市で 4 つの BRGY、計 9 つの BRGY を下見してきたわけだが、最終候補地として残ったものは、マラサルテ、サントロサリオ、シーラッドであった。先に結論を述べると次回 2012 年春のワークキャンプ地はマラサルテに決まった。

今回、ワーク地を決定する際、大きな問題となったものが、マタグオブ市かビラバ市か、という市の違いがあったと思われる。純粋にニーズの高さだけを考えるとシーラッドがワーク地となってもおかしくはなかった。しかし、今回の私たちの 1 つのテーマとして「**将来性**」というものを掲げていた。確かに、新しい市に移行することは 1 つの FIWC の将来性を持ったものになるかもしれない。しかし、「市を移行する前に今まで長年活動を続け、多くの人間関係、信頼関係を作ってきたマタグオブ市にやり残したことがないようにしたい」という思いが私たちの中に強くあった。そういった点で、マタグオブの中でもニーズの高いマラサルテ、前回のワークのやり残しでもあるサントロサリオが最終候補地として残った。以下に決定要因となった点をそれぞれ箇条書きにした。

＜サントロサリオ＞

- BRGY 側が改善案を持っているが、成功率は不明。
- 前回のワークですでに資金を提供しており、公平性の面で疑問が残る。

このワークの成功率については BRGY とエンジニアの間で意見が食い違っていた。（エンジニアは確実に成功するとはいえないとの判断。）そのため、次回ワークで問題改善をするのではなく、これからの下見で BRGY の動きを見ていくということになった。

＜シーラッド＞

- ニーズは高いが、ワーク費用が大きく BRGY 側が資金(資材)を集めることができるかという不安が大きい。
- BRGY 側のワーク体制(資材など)が整ったうえでワークをするべき。

よって、そういった点を中心に次回以降の下見キャンプでこれからの BRGY の動きを確認してほしい。

＜マラサルテ＞

- 過去に数回下見が行われており、何度も最終候補地として残ってきた BRGY である。
- 村人のニーズも高く、この BRGY こそがマタグオブ市でのやり残したことであると私たちは判断した。
- 資金の出所が BRGY と FIWC の 2 か所だけで十分なので、去年のような資材の遅れも少ないのではないかと思われる。

村人のニーズも高く、資金面にも問題は少なく私たちの目指すキャンプに最もふさわしいと思われたので最終的にマラサルテで次回のワークキャンプを行うことを決定した。

その他の下見候補地について

今回の下見キャンプでは、マタグオブ市で5つ、ビラバ市で4つの村を下見した。最終候補には至らなかったが他の村の下見情報を以下に記す

マタグオブ市：マラサルテ、バラクタス、イメルダ、サントロサリオ、サンセバスチャン

ビラバ市：シーラッド、ヒナブヤン、バレイテ、リバゴング

BRGY.Balagtas

〈概要〉

村	バラクタス	人口	1865人(2007年調べ)
問題点	この村の小学校には水道設備がない。すぐ近くの公道に水は通っているが、交通量も多く危険であるため、校長先生は心配している。また、小学校の方が高い位置にあるため、パイプを引くだけでは水は届かない。		
場所と移動手段(距離、時間)	サントロサリオの隣にあり、市の中心にあるマーケットまで、バイクで10分かかる。		
備考	ここの小学校の校長先生は、昨年(2009年)までサントロサリオ小学校の校長先生をしていたため、FIWCのことをよくわかってくれている。		

〈ワーク内容〉

- 公道沿いにある蛇口のところに小さなタンクを作る。
- そのタンクから学校までを電動ポンプでつないで水を汲み上げる。
- 小学校に貯水用のタンクを作る。

費用は 70,000P、期間は 12 日間の予定であった。

〈FIWC の判断〉

昨年のように小学校に焦点をあてて考える場合、このワークのニーズは高かったかもしれないが、今回そういう視点では捉えておらず、また村全体として見たときに利益を受ける人が少ないことなどから、今回ここをワーク地に決定するには至らなかった。

BRGY.Imelda

〈概要〉

村	イメルダ	人口	441人(2007年調べ)
問題点	水道設備は整っているが、現状水不足が起きている。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで5分かかる。		
備考	土地柄はサントロサリオと似ており、農業を営んでいる人が多いように思われた。		

〈ワーク内容〉

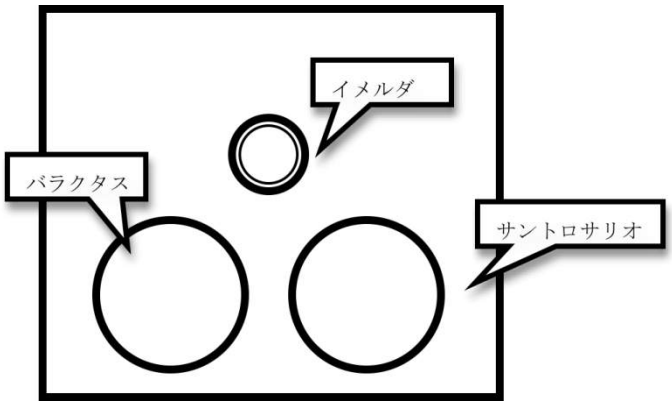
単純に問題を解決するだけなら以下の手法が考えられる。

- Water Source(水源)から村までのパイプの太さを大きくする。
- 村に今以上の大きい貯水タンクを作る。

費用はパイプが 200,000P、タンクが 50,000P、期間の詳細は不明。

しかし、これにはいくつもの大きな問題がある。

- この村が使用している Water Source(水源)のタンクは、他にも人口の多いサントロサリオ、バラクタスも使用している。
- 人口の差からか、タンクから取り付けられているパイプの太さもイメルダは 2inch、他は 4inch となっている。
- またパイプを繋いでいる高さもイメルダのみ高い位置に取り付けられている。(下図参照)



よってこのワークを行う場合、他の村への影響が考えられる。

また、イメルダのために他の水源にタンクを作ることを考えても、距離が遠く、費用面でも厳しい。

〈FIWC の判断〉

村のニーズは確かにあるが、このワークを行うにはリスクが高すぎると判断した。この話を進めていく場合、Water Source(水源)を使用している 3 つの村の村長がしっかり話し合うことと、市の協力が必要不可欠であると思われる。今の段階では FIWC が手を出せる代物ではないので、これから村の対策がどのように練られていくかに観点を向け、次回以降の下見キャンプの参考にしてほしい。

BRGY.San.Sevaschan

〈概要〉

村	サンセバスチャン	人口	822人(2007年調べ)
問題点	現在この村はHousing Project(住宅作り)を実施しており、その際の費用はあるが、斜面を削り取ってできた土地に建築しているため、土砂崩れの危険性がある。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで15分かかる。		
備考	FIWCが過去に2回ワークを行っている村である。そのため、日本人に対してすごく良い印象を持っていると感じられた。		

〈ワーク内容〉

土砂崩れを防止するための、斜面補強のワークが案として出された。

- 基礎となる土台を作るため、穴を掘る。
- その穴にセメントを流し込む。
- 石とセメントを混ぜたもので斜面を補強する。

費用は FIWC が 100,000P、BRGY が 38,000P、市が 105,000P であり、期間は約 3 週間かかるとのこと。

〈FIWC の判断〉

この村の村長はすごく出来る人で、他の村からの見本とされているほど良いプロジェクトを独自に行っている。資金は市からこのプロジェクトのために毎年 100,000P を援助することが決まっており、FIWC が介入せずともこのプロジェクトは達成できると思われた。また、3 回目ものワークとなると、他の村との不平等性が大きくなることも考え、ワーク地からは外すことにした。

BRGY.Hinabuyan

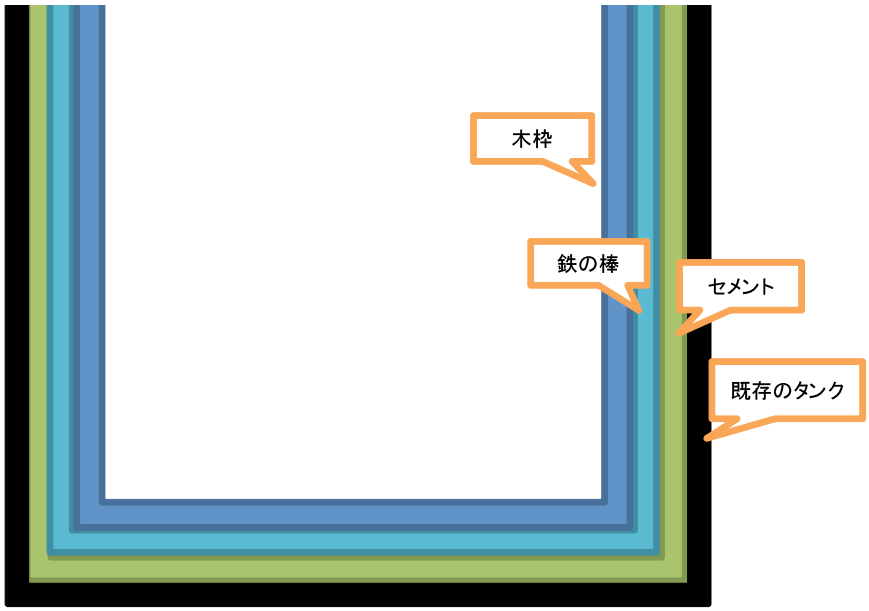
〈概要〉

村	ヒナブヤン	人口	3500人以上
問題点	現在水不足が起こっており、原因は水源から引いてきた水を貯めるタンクに亀裂があることと、水源からタンクまでのパイプが台風で壊され、細いパイプで代用しており水圧が弱いからである。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで10分ほどかかるが、この村自体大きいので村の中で食材を揃えることも可能。		
備考	タンクの亀裂は、タンクから出ていく分のパイプだけをすべて閉じたところ、それでも水が溜まっていなかったことからほぼ確実。村は広く、集落同士も離れている。海が近く、漁業が盛ん。		

〈ワーク内容〉

BRGY 自身は前者のパイプの修理を独自に行う予定であった。よって、今回の FIWC のプランとしてはタンクの修理のほうをプランとして考えた。

- 既存のタンクの内側に鉄の棒と木枠で型を作る。
- その型の中にセメントを流し込む。
- 最後にタンクの蓋を作る。



亀裂箇所が不明であるタンクを修理するのは難しいため、より簡単な新しいタンクを作ることになりかけたが、新しくタンクを作る場所がなかったため、タンクの内側にもう 1 つタンクを作るような構造を取ることにし、上記のようなワークプランになった。

費用は FIWC が 80,000P、BRGY が 20,000P、期間は 15 日間の予定であった。

〈FIWC の判断〉

現在 BRGY 側が独自により太いパイプにするための資金を集めており、そのプランを実行しようとしている段階であったため、今の段階では FIWC は介入せず、パイプの改善を行った後、再度下見を行い村の状況を確認するほうが資金的にも無駄が出ず最善ではないかと思い今回のワーク地からは外すこととなった。また、村が広大すぎることから村の隅まで自分たちの目で確認することができず、実際にどこが利益を受けるのか、またどの Water System(水道設備)が整っていない地域なのか、など下見不足が見られた。将来的にビラバ市でのワークを考えると、以後の下見キャンプでは上記のような下見が足りなかった点、また問題であったタンクの漏れやパイプの改善を中心に見てきてほしい。

BRGY.Balite

〈概要〉

村	バレイテ	人口	3000人以上(2010年現在)
問題点	小学校の校舎のひとつが古くなって崩壊の危険性がある。また、学校内に水道設備が行き届いていない。現状、近くの交通量の多い公道を渡って水を得ているので危険である。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで10分かかる。		
備考	小学校の生徒数は300人。		

〈ワーク内容〉

古校舎の修理は、修理するより建て替えた方が安く簡単に出来るらしいが、その費用は2,000,000P で手が出ない。よって、Water System(水道設備)のほうで話を進めることとなった。

現在学校内に貯水タンクはある。また、以前はタンクから各教室にパイプが繋がれていたが、壊れてしまい現在使用不可能な状態になっている。

- 学校から約 1km 離れた Water Source(水源)から学校の貯水タンクにパイプをつなぐ。
- 学校の貯水タンクから各教室にパイプをつなぐ。

費用は学校のタンクまでのパイプ代が 20,000P、タンクから各教室までのパイプ代が 10,000P、期間は 7 日間を予定していた。

〈FIWC の判断〉

村が使用している Water Source(水源)と同じものを使うため、村への影響を懸念している。水源の水量が少ない場合はこのプランは難しい。もし水源の状態が良く、このプランが実行できるとしても、現在この村自体が水不足に悩んでいるという問題があることがわかった。小学校という限られた人への利益だけではなく、村全体を考えた上でのプランを練ることが良いと思われる(小学校に焦点をあててワーク考えていく場合は別)。また、パイプをつなぐだけという作業になるため、人手もあまりいらず、技術的な面が多いため、FIWC の 1 つの目的である交流の点であまり良いワークではないと判断し、今回は見送ることにした。

BRGY.Libagong

〈概要〉

村	リバゴング	人口	不明
問題点	台風によって壊れた橋がある。現在橋が無いため、海を渡る時は小船か泳いで渡っている(水深は子供でも足がつくほど浅い)。また、小学校が本島のほうにあるため、島の子供が学校に通うために泳いでいる人もいる。		
場所と移動手段(距離、時間)	村の中心にあるマーケットまで、バイクで10～15分かかる。		
備考	現地NGO(NorWeLeDePAI)からはWater System(水道設備)だと言われた。この村の構造として、海に面しており本島と小島から成っている。		

〈ワーク内容〉

現在壊れた橋の支柱自体は残っているが、もともと橋の大きさは車が通れるほどのものなので、支柱を使って元の形にするには莫大な資金が必要であり、FIWC が手を出せるものではなかった。現在一時的な対策として村は竹で橋を作っているが途中までしか終わっていない。この一時的な橋を完成させるには 100,000P で可能である。また、もう少し頑丈な鉄の橋を 200,000P で作ることが可能。

〈FIWC の判断〉

資金的に竹の橋、もしくは鉄の橋を作ることは可能ではあったが、鉄は塩水で錆びて使い物にならなくなることも聞き、どちらにせよ一時的なものでしかないことがわかった。FIWC の目的の 1 つでもある交流の点から判断した時、ワークで作ったものは村人と日本人の交流の礎のようなものと私たちは考えており、それが将来的に無くなってしまうことを考えると私たちの目的と外れるため、次回のワーク地から外すこととなった。

マタグオブ市とビラバ市

●マタグオブ市（Matag-ob）

フィリピン南東の島、レイテ島の西側に位置する市。中心にはマーケットなど様々な店が立ち並んでいる。その一方で山間部に位置する村は水道や生活環境が整っていないところが多く、都市部との貧富の差が感じられる。

大都市からの交通の便もよく緊急性のあるニーズが多くあったため、2006 年の夏から FIWC 九州の活動拠点とし、ワークはもちろん交流を行ってきた。今ではこの活動が着実に浸透しており、日本人への理解が深まっている。

●ビラバ市（Villaba）

先に紹介したマタグオブ市の隣に位置し、海に隣接する市。昨年の下見キャンプからワーク地の候補としていくつかの村を下見している。マタグオブ市と同様交通の便もよく、緊急性かつニーズの高さ、そして FI が行える適度な大きさのプロジェクトがあることからビラバ市が今後の候補地としてあがったのである。

補足①：

昨年の下見キャンプから FIWC 九州はビラバ市への移動を視野にいれ活動を行ってきた。というのも、マタグオブ市ではニーズが高く、予算的にも可能なワークはこの数年で行っており、他のプロジェクト案は FI の関与できないものであったり、莫大な費用がかかったりして選択肢が狭まってきた。来年以降も見据えて選択肢を増やすため今回も引き続きビラバ市での下見を行った。

ワーク Evaluation報告

Evaluation とは…前回のワーク地を再訪し、
前回行ったワークの現状を評価するというもの

今回の下見キャンプで前回のワーク地であるサントロサリオ村で Evaluation を行った。

●２０１０年度ワーク

［概要］

場所:フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市サントロサリオ村

期間:2010 年 2 月 25 日(木)～3 月 12 日(金)

内容:▲小学校のフェンス作り

■小学校内の建物の修理

◆小学校と周辺地域の水道システム整備

当時の状況

▲ 学校は川より低地にあるため、雨が降ると水浸しになってしまう。2008 年 7 月の台風時に学校のフェンスが崩壊し、無防備な状態であった。そのため、雨が降ると状況によっては休校や、途中下校させることも。

■台風の被害と老朽化で壊れかけた校舎が保護者のミーティングや子供達の休憩・食事時に使われ、危険な状態であった。

◆学校に水が通っておらず、国道付近まで水を汲みに行かなければならなかった。

ワーク後の状況

▲本キャンプ中にこのワークを終了。フェンスの一部のフィニッシング(最終工程)が終わっていないが、今後、学校独自で進めていく予定。

■ワーク期間中に資材の遅れなどトラブルが発生し、本キャンプ中に終了できず。後日、エンジニアさんだけでワークを続行してもらい、完成にいたった。

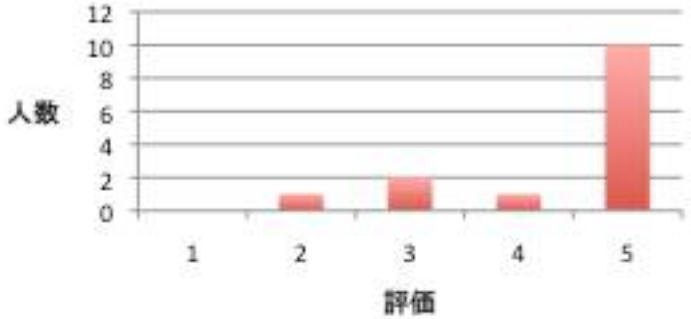
◆ワーク期間中に異常気象により水圧が低下し、水がタンクまで上がらず、ワーク期間中での作業は不可能と判断し延期となった。

[Evaluation 結果]

１．FIWC の昨年のプロジェクトから利益を得ていますか？

（5 段階評価：not so good　１２３４５　good）

▲スクールフェンスについて（15 人回答）



※分からない　1 人

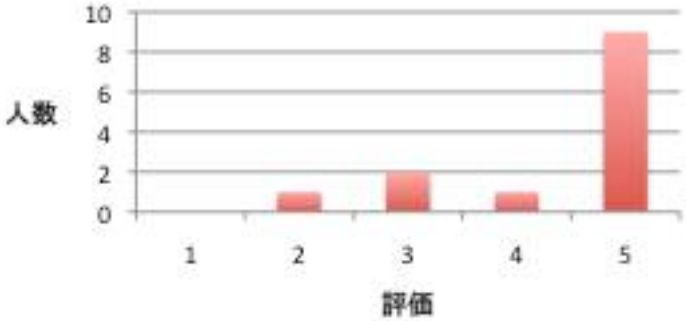
※分からない　1 人

なぜか？　・子供たちを洪水から守ってくれる。

・まだ完全に終わってない。（フィニッシングのこと）

・フェンスを造るのに必要な木材を子供たちが持ってくる必要がなくなったから。

■校舎修理について（15 人回答）

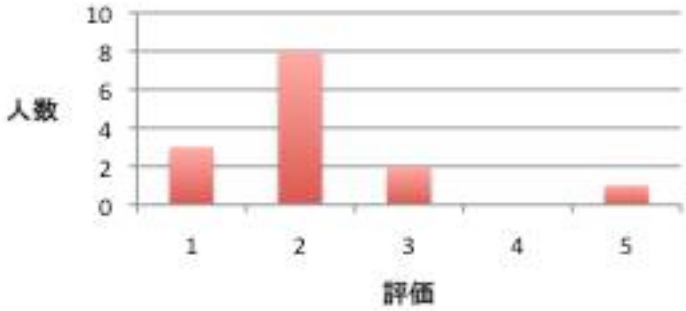


※分からない　2 人

なぜか？　・子供たちや親の利用する場所が安全な環境になった。

・まだ終わってない。　※FI の行ったワーク内容を理解してないと思われる。

◆水道システム整備について（15 人回答）



※分からない 1 人

なぜか？　・水を得られない。

・ ワークが終了していない。

２．FIWC の帰国後、何か問題はありましたか？

→（if yes）どのように対処しましたか？

YES or NO　(11 人回答)

NO→2 人

YES→9 人　　・水がない。

→だから、今までも村の役員が問題解決に励んでいる。

３．FIWC がこの村に滞在したことをどう思いますか？

YES or NO

①FIWC メンバーと交流できましたか？　（14 人回答）

YES→13 人　NO→1 人

②FIWC の行動に時々苛立ったことがありますか？（14 人回答）

YES→0 人　NO→14 人

③FIWC がこの村に滞在したことで楽しめましたか？（13 人回答）

YES→13 人　NO→0 人

④FIWC メンバーはフィリピンの文化を理解、尊重していましたか？（14 人回答）

YES→13 人　NO→1 人

・FIWC メンバーみんな友達。

・日本人はとても優しくいい人たちだ。

４．FIWC が改善できる問題が他にありますか？（前回ワークの改善を除いて）

（10 人回答）

YES→10 人　NO→0 人

・ 水道システム整備が終わっていない。(7 人)

・ お金がない。(1 人)

・ 家の修理。(1 人)

・ たくさん問題はある。

しかし、それは FIWC 次第だ。(1 人)

※4 の回答はプロジェクト以外の回答を求めていたが、水　道システム整備が終了してないことで水不足が未だに深刻であったため、多くの村人が水問題を懸念していた。

TEAM★文房具現地報告

[TEAM★文房具発足経緯]

2010年度のキャンプの時、文房具集め隊★*1の活動でサントロサリオ村の小学生と小学校を対象として文房具寄付を行った。その活動を通して、文房具集め隊★のメンバーから反省が多く挙がった。第一に企画の甘さ、勉強不足が言える。そのため、寄付の平等さや現地への負の影響(経済効果など)に不安が残る結果となった。これらの反省点を踏まえ、この活動を“無期限活動休止”とした。

寄付活動についてより深く学び、活動を継続していくのか、余った文房具をどう活用できるのかなどを話し合う場として「TEAM★文房具」を立ち上げた。

■下見キャンプ中の動き

1） 文房具集め隊★活動、文房具寄付の Evaluation

2） 姪浜中学校からのメッセージ贈呈＆動画や写真の撮影

１） 文房具 Evaluation

◆２０１０年度文房具集め隊★活動

＊活動目的

現地の子供たちの学習環境を向上し、学習意欲を促進すること。日本国内の小中校生に国　際協力の機会を提供することでフィリピンンの子供たちの現状、さらに寄付という活動をより深く考えてもらう機会を設けること。

＊現地活動

①青空教室（2010 年 2 月 27 日）※参加した子供対象

- 日本語教室ー1人に鉛筆1本と切り離したノート1枚
- お絵描き教室ークレヨンの貸し出しのみ

②贈呈式（2010 年 3 月 2 日）※全校生徒対象

- 1人につき新品の鉛筆3本　計945本（315名）
  →欠席者には後日先生が渡した
- 学校備品としてクレヨン41箱、消しゴム255個

③Farewell Party（2010 年 3 月 14 日）※参加した子供対象

- 1人につき新品の鉛筆2本　計400本（200名）

---

*1 文房具集め隊★・・・サントロサリオ村に子供が多いこと、2010年度のワークが小学校を対象としたワークであったこと、一部の子供が学用品を十分に持っていない状況を知り、子供たちに文房具を寄付しよう！と思い発足したチームである。

＊Evaluation 結果

ノルウェル・村長・先生には文書、保護者・子供たちには口頭で行った。

→すべて載せるには分量が多すぎるため代表的な回答を載せた。

＜ノルウェル＞　（２人回答）

Ｑ１．子供たちはFIWCから平等に文房具を受け取ったか？

鉛筆を渡す際、直接サントロサリオ小学校の生徒に渡していたため、それぞれ全員が鉛筆を受けとることが出来た。

Ｑ２．学校側は寄付した学校備品を正しく使っているか？

私の知っている限りでは、校長は担任教師たちの了承のもと、すべての生徒たちがそれぞれの教室でクレヨンや消しゴムを使用出来るようにしている。

Ｑ３．教育面で子供たち、保護者の変化が見られたか？

FI が文房具を寄付したことで、保護者たちは子供に文房具ではなく他のものを買い与える余裕が出来たから。

Ｑ４．文房具寄付活動に問題はあったか？

なし!

Ｑ５．文房具寄付活動のよかった点は？

文房具寄付のプロジェクトはノルウェルが支援しているレジスターチルドレン以外の子供たちにも文房具が提供されること。生徒たちのニーズを満たすことで FIWC の誠意を伝えられたと思う。

Ｑ６．文房具寄付活動の改善点は？

保護者、子供たちに FIWC の支援には限りがあることを理解させるべきである。

Ｑ７．教育支援（文房具寄付活動も踏まえ）に関してアドバイスはあるか？

事前に GAM などで村役員と話し合いをすべき。
しっかり活動の意味を伝える。

Ｑ８．（参考までに）ノルウェルの支援する子供には何を与えていますか？

ノート、ボールペン、鉛筆、紙、など子供たちのニーズに合ったもの。

＜村長＞

Ｑ１．渡した文房具はまだ受け取っていなかった子供たちに渡せたか？

全てには渡せていない。

Ｑ２．村の子供たちはみなもらったか？

sitio.バラナックのデイケアーの子供たちはその日デイケアーに来なかったので、その子たちを除いてはみんな受け取ったと思う。

Ｑ３．教育面で村全体の雰囲気の変化はあったか？

はい。

Ｑ４．この活動で何かしら問題が起こったか？

いいえ。

Ｑ５．この活動の目的をどのように理解しているか？

子供たちの勉強意欲の向上、日本の言葉や文字、意味を教えること。

Ｑ６．この村の教育をよりよくする上で必要なものは何ですか？

図書館が欲しい。子供たちが本に接する機会がほとんどないから。

Ｑ７．教育支援（文房具寄付活動も踏まえ）に関してアドバイスはあるか？

この村への文房具寄付を続けてほしい。子供の教育のために学校備品をそろえるという考えは以前なかった。

＜先生＞　（５人回答）

Ｑ１．寄付した学校備品はどのように使っているか？

文房具は筆記や美術などの日々の活動で使っている。

Ｑ２．備品は役に立っているか？

文房具を買うことができない子を含め生徒たちみんなにとても役立っている。

Ｑ３．子供たちの勉強意欲に変化はあったか？

・子供たちは毎日学校にきて、熱心に学んでいる。
・特にかわらない。

Ｑ４．この活動の目的をどのように理解しているか？

・物資と学問的な活動で学校を援助することと日本とフィリピン間の良き関係を築くことである。
・毎日学校に行く意欲を高めるため。
・筆記や美術のスキルにおいて、生徒たちの能力をあげるため。

Ｑ５．教育に関して子供たちは何を必要としていると思うか？

・卒業後の仕事。
・他の学校備品。

Ｑ６．教育支援（文房具寄付活動も踏まえ）に関してアドバイスはあるか？

・学校備品をそろえ、生徒たちに提供することは、生徒の授業の出席を奨励する。
・互いに理解し合うために、ビサヤ語をよく学んでみてください。

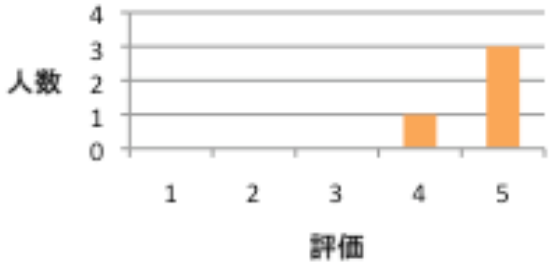
＜保護者＞

Ｑ１．あなたの子供はどこの小学校に通っているか？（４人回答）

YES→4人　NO→0人

Ｑ２．鉛筆を受け取った後、子供に勉強意欲の変化はあったか？（４人回答）

5段階評価 not changed　1 2 3 4 5　changed very much



Ｑ３．あげた文房具は大切に使っていたか？（４人回答）

YES→4人　NO→0人

Ｑ４．この活動で困ったことはあったか？（４人回答）

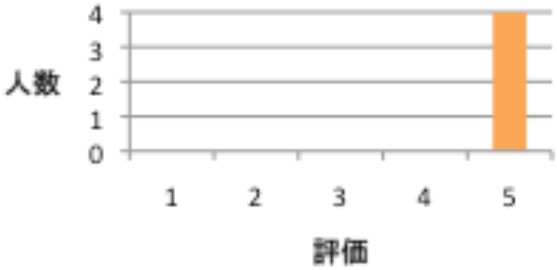
YES→0人　NO→4人

Ｑ５．どこで文房具を買っているか？（４人回答）

マタグオブの中心街(3人)、オルモック(1人)

Ｑ６．子供の教育をどう考えているか？（４人回答）

5段階評価　not necessary　１２３４５　very important



＜対象の子供たち＞

YES or NO

Ｑ１．文房具をもらったか？（１９人回答）

YES→18人　NO→1人

Ｑ２．あげた文房具は大切に使っているか？（２１人回答）

YES→21人　NO→0人

Ｑ３．学校に寄付したクレヨンや消しゴムは使えているか？（２１人回答）

YES→18人　NO→2人　分からない→1人

２）メッセージ贈呈＆撮影

◆企画説明

①企画概要

寄付してもらった文房具をフィリピンのサントロサリオ小学校に届けた際、現地の児童が日本の協力校の皆にメッセージを書いてくれた。今回の企画では、返事のメッセージを書いてもらい、それを FIWC のメンバーがサントロサリオ小学校へ届ける、その一連の流れを撮影し学校向けの開発教育の教材としてしようするというものである。

②企画立案背景

文房具寄付活動を通じて、私たちメンバー自身も寄付の外見しかわかっていなかったと気づき、協力してくれた小中校の子供たちも寄付〝される〟側を想定できずに「寄付＝単なる物の提供」になり、寄付の目的があいまいになってしまった背景がある。そこで、私たち TEAM★文房具は、寄付〝する〟側と寄付〝される〟側の距離を縮めることによって互いを理解し、思いやりの心を持つことができるのではないかと考えた。その方法として、メッセージのやり取りをビデオ撮影することを企画した。

◆現地での動き

＊メッセージ

・9月６日校長先生の許可のもと授業中のクラスを2つ訪問し、少し時間を頂きメッセージの説明と撮影を行った。

→当初の予定では朝のフラッグセレモニーで全校生徒の前でメッセージを渡す予定だったが、連絡がうまくいかず行えなかった。

＊撮影

・メッセージを渡す一部始終の動画と写真の撮影。

・フラッグセレモニーや授業風景などもおまけで撮影。

→事前に、撮影をする旨を話し、学校・村役員・ノルウェルに許可は頂いた。

［反省］

前回の文房具寄付活動の Evaluation を今回行ってみて、文房具集め隊★のメンバーが活動後の話し合いで挙がった反省点と同様なことを現地の方からも指摘を受け、この活動を喜んでもらえた事実がある反面、活動自体の甘さを再認識できた。

今後の TEAM★文房具の活動に、教育班は日本の小中学校への開発教育、売却班は余ってしまった文房具の販売がある。若干、文房具集め隊★の後始末に思える活動でもある。だからこそ、前回の反省を活かしひとつひとつ問題解決をはかり、さらに自分たちの学びにもつなげたいと考えている。

次回の本キャンプで、前回同様新しい村で文房具寄付を行うかは今後の話し合いで決定する予定である。

生活状況

衣

フィリピンは毎日暑く最高気温が 30℃を超えるような日がほとんどであり、Tシャツに半ズボン、そしてサンダルなどかなりラフな格好で生活していた。山間部への survey にビーチサンダルで行くメンバーもいた。ただ、朝と夜に冷え込んだりする場合もあるので、長袖と長ズボンが最低 1 着ずつ必要。蚊への対策としても長袖と長ズボンは使える。あとは帽子もあった方がよい。クロックスのほかTシャツやズボンなど大抵の衣服は現地でも調達でき、日本と比べ格安で購入できるので、途中で服を買い足すメンバーもいた。

食

フィリピンの料理は、豚肉や鶏肉や魚を使ったものが中心で醤油や塩で味付けしたものが多く、わりと日本人の味覚に合うものであた。主食が米でおかずが 1～3 品という献立が多かった。野菜も十分にとることができ、マンゴーやバナナ、パイナップルなど亜熱帯のフルーツは格別だった。コーヒーやオレンジジュース、コーラも飲むことができるが、基本的に食事のときはコーラか水の2択であった。お腹を壊す可能性があるので生水は避け、必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。

住

サントロサリオ村での最初の数日は capitan(村長)の家に泊めてもらっていたが、その後はBRGYホールという村の公民館のようなところに寝泊まりさせてもらった。ゴザをしいて床に寝るようにしていた。また、マラサルテ村では capitan の家に滞在した。ベッドはいくつかあるがマットレスが無いものもあった。

［風呂］　日本のような湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに貯めた水を手桶ですくって水浴びする「マリーゴ」というスタイルが主であった。水浴びの場所が屋外にあることもあり、その場合は服を着たまま水浴びした。

また、夜に水浴びすると冷えて風邪をひきやすいため、朝・昼に行った。石鹸やシャンプーは村の近くでも、安く購入できた。

※ワーク後は身体が熱をもっているため、1～2時間おいて水浴びすること(熱を持った状　態で水をかぶるのはよくないらしい)。

［洗濯］　村は洗濯機がない家庭がほとんどだったが、サントロサリオ村の capitan の家には洗濯機があったので使わせてもらった。

マラサルテ村の capitan の家には一般家庭と同じく洗濯機がなかったので、タライに水を貯め、粉末洗剤で手洗いをして汚れを落とした。日本人は手洗いに慣れていないのでなかなか汚れが落ちない。干すときは家の周りのロープや柵に干していた。

［トイレ］　便座が無いことが多く、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流だった。用を足したあとはポリバケツに貯めた水を手桶ですくって流す様式で、日本と違って紙は流せないため、ゴミ袋を持って行き、ゴミとして捨てていた。うまく流れきらないこともしばしばあったので大変だった。

［買い物］　マラサルテ村からは「ハバル」と呼ばれる中型バイクで30分くらいのところにマタグオブ市の市場があり、食料品・衣料品・薬・文房具など生活に必要なものはほとんどそこで調達することができた。また、村の中には「サリサリ」という小さな個人商店があり、お菓や、お酒などのちょっとした買い物をすることもできた。村からバスで1時間半ほどのところにあるオルモックという大きな港町では、村の近くではできない買い物やペソへの換金などもできた。

［交通］　近距離の場合には「ハバル」や、「トライシクル」と呼ばれる荷台付き中型バイクに3～5人程度乗って移動した。オルモックなど遠くに行く場合は村の近くから出ているバスを使った。今回の survey の拠点であったサントロサリオ村は国道沿いに面していたため、交通の便がよかった。その他、空港～セブシティ間はタクシーに乗り、セブ島～レイテ島間はフェリーに乗って行き来した。タクシーは高額な運賃をふっかけてくるドライバーもいるようなので、値段交渉をしっかりした上で乗らないといけない。また、降りるときはトランクや車内に忘れものが無いか確認し、忘れ物などの場合連絡を取るために、出来るだけタクシーのナンバーを控えておく。

会計報告

1p 硬貨→

↑10p 硬貨

［仕事内容］

・金銭の管理
・毎日の収支記帳
・残金の確認

［反省］

・1人 10000 円（5100 ペソ）徴収したが、連日の survey での移動により交通費がかさんだため、最後にはこれだけでは足りなくなってしまった。
・夜に村人と飲んだりするときは、その前に会計をつけておくべきだった。
・小銭をもっと用意しておくべきだった。
→小銭が無い場合はメンバーが立て替えることになるので会計が面倒になる。
換金所で渡された 500 ペソ札をいち早く、そして1枚でも多く崩すようにしたい。

［旅費総額］

航空券代	61,815 円
生活費	10,000 円
キャンプ参加費	500 円
＋）保険代	約 5,000 円
計	**約 77,315 円**

↑20p 紙幣

［料金の目安］

●個人費

・**お小遣い**　10,000 円で足りるはず
※補足→村ではほとんど使わない。
お土産代、交通費が大半。

●宿泊費

・**シランガンホテル（セブ島）**　※エアコン付き

シングルベッド	675p/部屋、泊
ダブルベッド	875p/部屋、泊

・**マニラ**　550p/人、2 泊
（学割でさらに 1 割引き）

●交通費

・バン

（シランガン→ウィーサム乗り場）	500p/台
（サントロサリオ→タクロバン）	120p/人

・船

ウィーサム（セブ→オルモック）　625p/人（Terminal Fee 含）

・バス

（サントロサリオ→マタグオブ）　10p/人

（マタグオブ→オルモック）　40p/人

（オルモック→サントロサリオ）　30p/人

（オルモック→リブンガオ）　25p/人

（リブンガオ→タクロバン）　80p/人

・ハバルハバル、トライシクル

（サントロサリオ→マタグオブ）　10p/人

（マラサルテ→マタグオブ）　30p/人

★収入について

・生活費徴収

正規メンバー　5,100p×5＝25,500p

なみさん　200p

・繰越　12,686.85p

収入	
繰越金	12686.85
徴収金	25700
合計	38386.85

★支出について（単位：ペソ）

支出		
交通費	ウィーサム	3125
	バン	500
	バス	1160
	タクシー	3095
	レンタカー	1370
	トライシクル	252
	ハバルハバル	4808
	ジープニー	174
	空港税	150
	地下鉄	140
	小計	14774
宿泊費	シランガン	1550
	マニラ	2000
	小計	3550
食費	食料	4402
	水	570
	小計	4972
携帯代	本体	1430
	ロード	1478
	小計	2908
雑費	洗剤	149
	たわし	25
	小計	174
カンパ費	ロクロクさん	6100
	小計	6100
合計		32478

☆ レート

2010.8.20~9.9　5,000~5,260/1 万円

KP(Kitchen Police)

仕事の内容

① 食器洗いと洗濯のシフト表を作成する（出発前）。

② 食材を買い出しに行く。今回は Survey などの帰りにマーケットに寄って買ったりもした。約 200～300piso で数日分をまとめて買った。

③ 外食する予定などがある場合は、いつも料理を用意してくれている人にそれを伝える。

④ ミネラルウォーターの管理をする。なくならないうちに買いに行き、全員に分配する。

食器洗いと洗濯について

サントロサリオ村の村長さん（capitan）の家で食事、洗濯をしたため、食事後の食器洗いと毎日の洗濯をメンバー全員で役割分担して行った。（食器洗い２人、洗濯３人）。食器洗い担当の者は毎食後の洗い物を手伝い、洗濯担当の者は朝、メンバー全員分の洗服の洗濯をして（空いた時間にできることを見つけて時間短縮を心掛ける）、夕方、Survey などの後にその洗濯物を取り込む。

シフト表作成の際、それぞれのシフトでメンバーの負担が均等になるように心掛ける。最初の何日間かは初めてのキャンパーだけにならないようにシフトを工夫するとよい（特に洗濯）。

今回の KP 反省

- その日の自分の担当を誰も把握していない日があった。KP が前日の夜か当日の朝、皆に伝えるべきだった。
- 食事についての capitan との話し合いなどをリーダーにまかせてしまった。
- 以上のことを踏まえたうえで、KP は、先のことを考えて、はやめに必要な情報をリーダーや BRGY の captain などから仕入れて他メンバーに伝達することが重要だと認識する必要があった。

保健報告

●仕事の内容

保健バッグの管理

→フィリピンで必要と思われる医療品を日本国内で買っておき、
それを現地に持っていき管理する。

●メンバーの健康状態

最初の数日間は便秘になるメンバーもいた。また、二日酔いのときは熱中症にかかりやすいらしく、その通り二日酔いから熱中症になり 1 日 Survey を休んだメンバーもいた。

しかし、いずれもすぐに治るものであり全体的に見てどのメンバーも健康であった。

●反省

・ムヒを1週間で使い切ってしまうメンバーがいた。

→虫刺されを防止する工夫をもっと徹底すべき。

☆豆知識

［キャンパーを悩ます蚊について…］

マニラなどの都市部でない限りどこにいても蚊は多かった。寝泊まりする場所は密室とは限らないので、どうしても蚊が侵入してくる。現地で off という強力な虫よけの薬があり、就寝前にそれを塗るメンバーもいた。実際に off を使うのと使わないのではかなり差があるように感じられた。就寝時は長袖長ズボンと靴下を着用し、顔や手はブランケットやタオルで覆って眠るのをおすすめする…。

フィリピンを含む東南アジアでは今年デング熱が流行していたが、全部で 100 カ所くらい刺されたであろうメンバーもデング熱にはかからなかった。ちなみにデング熱は発症するまでに1～2週間ほどの潜伏期間があるので、帰国してあまり経たないうちに発熱したらデング熱を疑った方がよい。

マニラ観光

下見の3週間のうち最後の 3 日間(9/7～9/9)をフィリピンの首都マニラで過ごした。
宿泊施設はなみさんに手配してもらい、ほとんどなみさんの案内で行動した。

宿泊地：The PhilDHRRA –Partnership Center (www.phildhrra.net)
宿泊費：550p／人 （学割で1割引になった。）

salt スタディツアーについて

●salt とは…

ソルト・パヤタスは、フィリピン、マニラのケソン市パヤタス、カシグラハンというゴミ山周辺のスラムに暮らす人々への支援を行っている日本の NPO/NGO。現地の「子ども」と「女性」への支援を中心に行っている。（http://salt.or.tv/index.html）

●ゴミを拾って生活する人々…

仕事のない地方からマニラに出稼ぎにきたものの、うまく仕事が見つけられなかったり、体を壊してしまい、職を失ったりした人々がゴミ山のふもとのスラムで暮らしている。この中には私たちの活動拠点のレイテ島からやってくる人々も多くいる。彼らは「**スカベンジャー**」と呼ばれ、毎日、危険で不衛生なゴミ山に入り、大量のゴミを拾っては廃品回収業者に売って収入を得る。
過酷な肉体労働、不安定な収入…。

そもそも、都会の人々が出したゴミを拾うという生活が
人間的な生活だといえるのだろうか？

同じフィリピンで活動する団体として、フィリピンについて、国際協力の在り方について、もっと知るために今回 salt のスタディツアーに参加させていただいた。

●スケジュール　9 月 8 日

時間	内容
8:20	集合　場所：ケソン市フィルコアジョリビー前
9:00～9:30	1. オリエンテーション（パヤタス） パヤタスとソルトと事業内容の説明など
9:30～9:45	2. 慰霊碑訪問　ゴミ山崩壊事故の説明、黙祷
9:45～10:00	3. ゴミ山ふもと　ゴミ山展望とスカベンジャーについて解説
10:00～11:00	4.家庭訪問（パヤタス）　ソルト受益者宅の訪問
11:00～11:30	5.女性収入向上事業見学 ソルトタオルの紹介
11:30～12:00	6.質疑応答　ディスカッション

慰霊碑訪問　2000/7/10 のゴミ山崩壊事故の被災者を追悼するために作られたもの。234人、行方不明者 82 人。Salt の支援を受けていた子供も3人がなくなった。

被災者の声

・崩壊事故後ゴミ山は長年閉鎖されていたが、昨年から投棄が再開し第二のゴミ　山が形成され、一体化し巨大な山となりつつある。

・被災者側の国に損害賠償を求める裁判は今もなお続いている。

ダンプサイト（廃棄物処分場）　ゴミ山からの悪臭と不衛生な環境にも関わらず、周辺には住宅街、学校、教会があり多くのひとびとが生活している

ジャンクショップ（廃品回収業者）の声

・スカベンジャーが拾い集めたゴミを毎日売りに来る

・ジャンクショップの買い取り価格

プラスチック　15p/kg　鉄　7p/kg　缶　5p/kg　PET 15p/kg

※スカベンジャーが受け取る額は日によって、性別や年齢によってかなりの差が出る。

・スカベンジャーから買い取った約2週間分のゴミを工場に売りにいく

（ex.　プラスチック　25,000p/t）

・ジャンクショップの top は中国系の企業が握っている

家庭訪問　salt の奨学金事業の受益者であるジュンデル君の家を訪問。

ジュンデル君の母（デリアさん）の声

・ミンダナオ島からマニラに30歳の時出稼ぎにきた

→紛争があって仕事が見つけにくかったため

・夫とは離婚しており、一人で2人の子供を養っている

・現在、体を悪くしているために十分な収入を得られていない

女性収入向上事業　ゴミ山崩壊によりスカベンジャーとしての職を失った母親に仕事を与え、生活収入の安定化や女性の自立促進を目指している

salt オンラインショップ

（http://saltpayatas.cart.fc2.com/）

・クロスステッチ刺繍で絵柄を作り、それをタオルやブックカバーなどの製品に縫い付けフェアトレード製品として販売している。

・　刺繍の難易度によって様々だが、1つ完成する毎に15～30p収入を得る

・SSS : Social Security System

給料の一部は支払わずに Salt が管理し、年に2回ボーナスのようなかたちで支払うシステム

・目標★フィリピン人だけで運営できるようにしたい

他己紹介

☆ゆき　（キャンプリーダー）

前回キャンプでは同じイベントとして、そして今回は我らがフィリピンキャンプリーダーとして頑張ってくれ、すごく頼りになる存在。いつもビシバシ指示を出しているゆきやけど、ほろ酔い時の顔が可愛いと評判な乙女。ツンな態度しかとられたことないけど、きっとツンデレなんだろうと信じて止みません。フィリピンにとって、そして自分たちにとっても最高の春キャンプにしよう！！

From:たかし

☆たかし　（ワークリーダー）

たかしとは前回の本キャンプに一緒に参加して以来の付き合い。今年はワークリーダーとしてだけではなくいろんな面で支えてくれてます。あとは英語力さえ UP してくれればなあ…笑　たまーに日本語もちょっとおかしくてみんなを戸惑わせるたかし君ですが…村人からの人気は抜群！今回はおかまキャラ脱出しようと必死に奮闘しています。笑　でもやっぱりワークリーダーという責任感のおかげか前のキャンプのときに比べて明らかに英語力スキルアップしてます！！これからの活躍に乞うご期待♪

From:ゆき

☆あこ　（副リーダー）

あこはモテます。マタグオブ市の市長さんもサントロの若者も彼女のことが大好きです。でも彼らはあこの寝姿を知りません。残念です……。あんな見事な大の字を見たら、もっとメロメロになれるのに。いや、冗談はさておき、あこは素敵な女の子です。バースディのときのコスプレ衣装には全ての男どもが萌え萌えでした！なーんてね＼(ˆρˆ)／

From:だいき

☆だいき　（KP＆会計）

だいきはもてます。ラブレターまで貰ってました。だいきはドラマーなので常にリズムを刻んでいました。村人からは色が白くて肌がキレイでイケメンだと言われてました。会計や KP の仕事お疲れ様でした。
From:ゆーじ

☆ゆーじ　（記録＆保健）

ゆーじの第一印象･･･でき男!!!
でも、一緒にキャンプ行って、共同生活して、キャラ崩壊しちゃったね～(笑)
とはいえ、MTG のときにはうちらが気づけなかったところを指摘したり、
メンバーの体調を常に気にかけてくれる素晴らしい面もちらほら。
メンバーみんな年下でやりにくかったこともあるかもしれないけど、こっちはゆーじがいて心強かったよ♪　おつかれ！そして Salamat*:D　　From:あこ

☆みっちー(国内係)

今年は日本でお留守番のみっちー。バイトで忙しい中いつも電話待ってくれてたんだよね…。連絡するのいっつも忘れちゃってごめんね(･･;)でも、みっちーとの電話には他のメンバーも癒されてました。不規則な連絡電話をいつもすぐ取ってくれてありがとう！サントロサリオのみんなも「コブラボーイ」みっちーの帰りを心待ちにしてたよ！！今度は一緒にサントロに帰ろうね！

From:ゆき

感想

[ゆき]

今年もまた下見経験者のいない下見キャンプ。分からないことだらけだったが、周りの心配をよそに私自身は不思議とそこまで不安を感じていなかった。たかしもいるし、あっこもいるし。その点で出発前から、少し 2 人に頼りすぎてしまったことは今後の反省である。しかし文句ひとつ言わず、私を支えてくれる 2 人、そしてゆーじ、だいきには感謝でいっぱいである。

今回の下見キャンプは前回のワークキャンプとはまた少し違い、毎日が新たな人との出会いでいっぱいだった。新メンバーのゆーじ、だいきにとっては知らないことばかりでかなりハードなキャンプであっただろう。だけど、すぐにフィリピンに馴染み、現地人と仲良くなれ、とてもよかったと思う。

昨年のキャンプを終えてから、私の中でこのワークキャンプの意味についてずっと考えていた。その中で私が出した答えは「人と人をつなぐこと」それがこのワークキャンプにおいて最も重要なことではないかと考えた。もちろんプロジェクトあってのワークキャンプである。だが、限られた時間の中で素人の私たち学生にできること、私たちだからこそできることは、「日本人を知らないフィリピン人」と「フィリピン人を知らない日本人」とを結びつけることだと思う。国境を越えてお互いを気遣える相手を見つけること、それは立派な国際協力だと私は考える。

まだまだキャンプはこれから。やっとスタートラインに立った。これからきっともっと大変なことがたくさんあるだろうけど、下見メンバーのみんなそしてまだ出会っていない本キャンプメンバーのみんな。みんなで乗り越えていきたい。そしてメンバー全員が再びフィリピンの友人や家族に会いにいきたいと思えるようなキャンプを作ること。それが私が今年のキャンプにおいて目指すことである。

最後に、私自身まだ学ばなければならないことばかりですが、私を支えてくれる全ての人への感謝を忘れずに頑張っていきます。FI のみんな、OB、OG の皆さん、これからも 2011 年キャンプを暖かく見守って下さい。

[あこ]

下見キャンプが終わってはや1ヶ月。帰ってきてすぐは熱も冷めやらぬ状態だった。今なら落ち着いて下見キャンプを振り返ることができる。そこで私がはじめに思うことは、「私は副リーダーとしての役割を果たすことができたのだろうか？」という問いだ。

結論から言うと、リーダーに頼り過ぎ、支えにならなかったと自分自身感じている。英語が苦手だとか、強く発言できないだとか、自分に対する自信のなさが低俗な反省を生んでしまった。しかし、今回のキャンプで反省すべき点がはっきり見えたことは、ある意味収穫でもある。本キャンプを支えていくのは私たち下見メンバーであり、リーダーを支えていくのは副リーダーの私だ。もっと人数も増え、目を向けるべきところは下見キャンプ以上になる。この反省を活かして、広い視野を持って本キャンプに臨みたいと思う。

ずーんとした反省になっちゃったので、気持ち切り替えて感想を少し。2回目の参加となった今回のキャンプで、また新しいフィリピンキャンプが見えた。私は前回の春キャンプに行くまでは、なんて良い活動なんだろう、当然現地の人たちは喜ぶに決まってるし、自分にもプラスになるし・・・そんなことしか思えなかった。でも、下見に行って、自分たちの活動が良い意味でも悪い意味でも、とても大きな影響を村に与えているのだと実感した。FI 一人一人の行動が日本人そのものであり、これが現地の人の思う日本人の形となるのだ。もっと責任ある行動、相手を敬う心を持って接することでキャンプの本質に繋がると感じた。

フィリピンキャンプに参加することが自分への投資だというのには変わりはない。でも、前とは少し意味合いが違う。自分がよりフィリピンを知り、フィリピンキャンプの本質を知ることで他者にそれを伝えられるのなら、自分への投資ももっと開けたものになると私には思えた。気持ちの変化が伺えた2度目のキャンプ、次回の本キャンで何が見えてくるのか楽しみである。

不安の多かった下見キャンプも無事終わり、本キャンまで残すところ4ヶ月！キャンプの成功に尽力してきた先輩たちや過去のキャンプを参考にしつつ、私たち下見メンバーらしさのある新しいキャンプを作っていきたいと思う。何が出来上がるか是非ご期待を♪

下見キャンプに携わってくれた方々、ありがとうございました！！！

[たかし]

今回の2010年夏キャンプで二度目のフィリピンキャンプ参加になるが、出国前と帰国後、前回キャンプのときの自分の感想や参加目的を思い返えした。「参加目的は自分の視野を広げ、自分を成長させること。キャンプはすごく楽しかった。」なんて、よくもまぁこんな自己中心的なことばかり考えていた自分がすごく恥ずかしく感じた。もちろん、全く間違ってなどいないのだけれど、その間に存在する現地の人のことをより深く考え、あの人たちのために自分が何を出来るかを踏まえて今回のキャンプに臨んだ。

実際に現地に行って、純粋に自分がいかに無力であるかということを痛感させられた。ただただ悔しかった。専門知識もなく、語学力が優れているかといえばそうでもない。大金を出してまで私た

ちが行く意味を、自分の中ではっきりと見いだせていなかった。けれど、私たち日本人の学生が実際に行くことで現地の人々に良くも悪くも、大きな影響を与えられることは確かだと思う。専門的なことは何もできないが、他の NGO 団体にはできない、FIWC ならではの村人全体を巻き込み、全員参加型のワークをやる中で交流をはかっていく、その点に自分の力を注ぐといった私のできることをやり遂げようと思う。今まで FIWC が築きあげてきた多くの信頼のもと、たくさんの人に頼ることとなるかもしれないが、尽力をつくしていきたいと思う。

まだまだ課題は山積みであるが、村人の視点にたって考えることだけは常に考えていくつもり。次回の春キャンプでは、ワークリーダーとしての仕事が本格的にはじまり、大きな責任も伴う。それでも信頼出来る FIWC の仲間たち、現地村人たち、多くの方々の協力のもと、お互いに良き影響を与えあうキャンプを作れたらと思う。

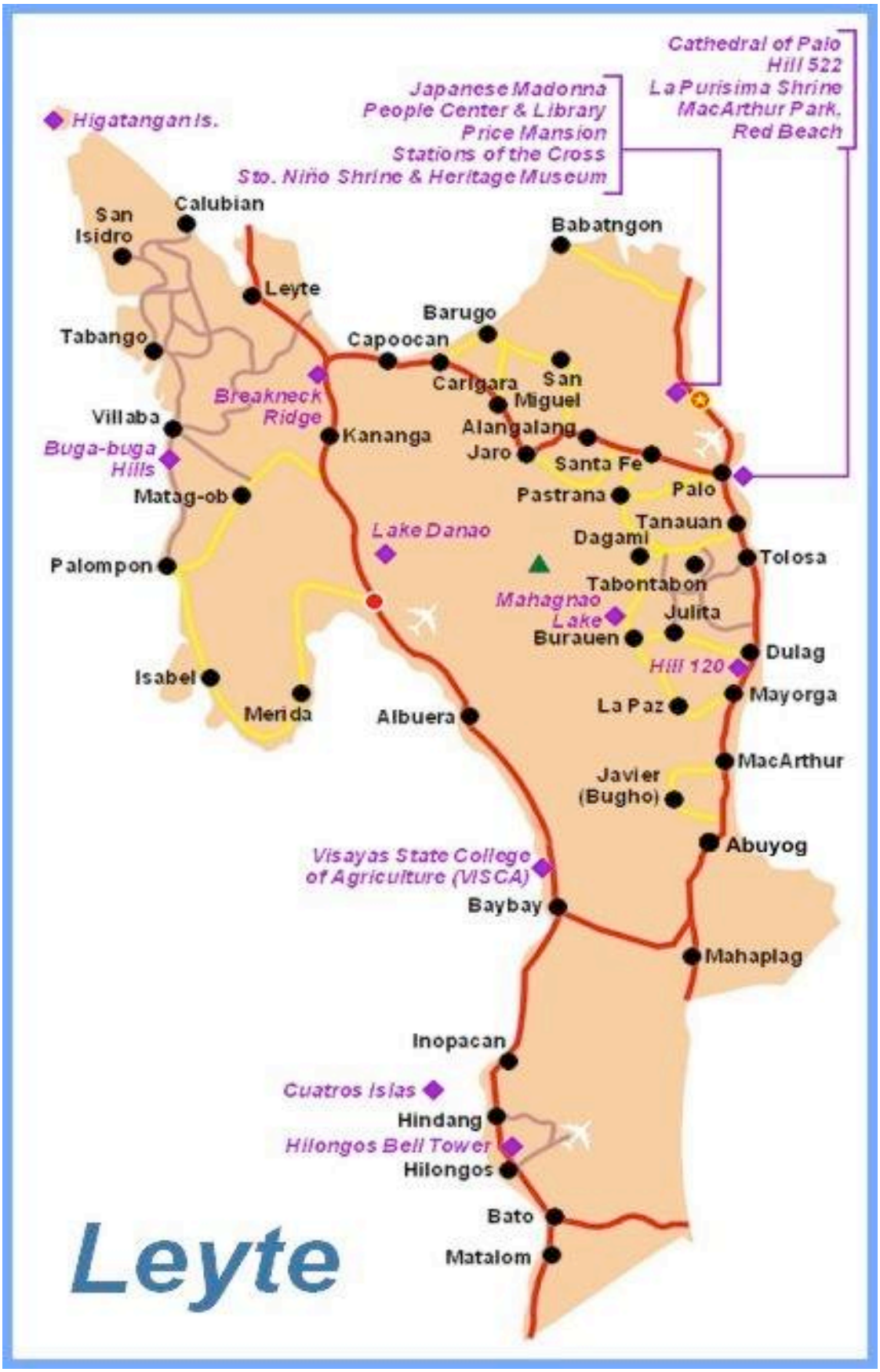
[だいき]

フィリピンでの3週間は長かったようで短かったようで…けど気づけばあっという間に帰国の時だった。この3週間で自分に何ができたのか。もっと何かできることがあったんじゃないか。そんな焦りにも似た思いを抱えながら日本での暮らしに戻った。

自分の家の蛇口をひねってみると普通に水が出た。それに違和感を覚えるほどフィリピンの生活になじんでいたのだと気づかされた。振り返ってみるとサントロサリオやマラサルテの人々と仲良くなれて本当に嬉しかった。英語もろくに話せず言葉も通じなかったけれど、その場の「何か」が人と人を繋いでいるように感じた———空気だったりテンションだったり、笑顔、バスケ、そして時には音楽だったり———。人と関わることの素晴らしさを改めて実感することができた。

そんな中で反省しなければならない点もやはりあって、正直なところ僕自身が付いて行った感は否めないと思う。フィリピン経験者の3人と、自分より年上で明らかに視野の広いゆうじ。無意識の内に頼りすぎている自分がいた。

けれど、こんな頼りない自分をメンバーの1人として認めてくれる、ゆき、あっこ、たかし、ゆうじには本当に感謝です。本キャンプでは他のメンバーを引っ張れるよう努力するので、これからもよろしくお願いします。本当にありがとう！


Cathedral of Palo
Hill 522
La Purisima Shrine
MacArthur Park,
Red Beach
Japanese Madonna
People Center & Library
Price Mansion
Stations of the Cross
Sto. Niño Shrine & Heritage Museum
Higatangan Is.
Calubian
San Isidro
Babatngon
Leyte
Barugo
Tabango
Capoocan
Carigara
San Miguel
Breakneck Ridge
Villaba
Kananga
Alangalang
Buga-buga Hills
Jaro
Santa Fe
Palo
Matag-ob
Pastrana
Tanauan
Lake Danao
Dagami
Palompon
Tolosa
Tabontabon
Mahagnao Lake
Julita
Burauen
Dulag
Hill 120
Isabel
Mayorga
La Paz
Merida
Albuera
MacArthur
Javier (Bugho)
Abuyog
Visayas State College of Agriculture (VISCA)
Baybay
Mahaplag
Inopacan
Cuatros Islas
Hindang
Hilongos Bell Tower
Hilongos
Bato
Matalom
Leyte